

## Working Paper Summary

JICA-RI Working Paper No.120

(2016年3月刊行)

Election, Implementation, and Social Capital in School-Based Management:  
Evidence from a Randomized Field Experiment of COGES Project in Burkina Faso

Yasuyuki Sawada, Takeshi Aida, Andrew S. Griffen, Eiji Kozuka, Haruko Noguchi, and Yasuyuki Todo

Research Project: [JICA 事業の体系的なインパクト分析の手法開発](#)

### ■ 付加価値

発展途上国における普遍的な初等教育の達成は非常に重要な政策的課題であり、学校運営に関する権限を中央政府から学校レベルに委譲する「自律的学校運営 (School Based Management : SBM)」は政策的・学術的に注目を集めている。SBM の効果については多くの研究が行われているが、教育サービスの様な公共財の持続可能性に関する研究は十分ではない。本研究では、JICA の代表的な SBM プロジェクトである「みんなの学校プロジェクト」を対象として、ブルキナファソでランダム化比較試験 (Randomized Controlled Trial: RCT) 及び人工的フィールド実験 (Artefactual Field Experiment) を実施して、SBM が公共財への自発的投資額として計測された社会関係資本の醸成に与えた影響を厳密に評価した。

### ■ リサーチ・デザイン

ブルキナファソ・ガズルグ県内の小学校をトリートメント群とコントロール群の2グループにランダムに割り振り、トリートメント群で介入を実施した。トリートメント群では、地域住民の選挙により学校委員会のメンバーを選び、各学校の課題を改善するために委員会と地域住民が様々な活動を実施した。このランダム化比較実験と、公共財実験と呼ばれる人工的フィールド実験の結果を組み合わせ、学校運営委員会成立が社会関係資本の醸成に与えた影響を定量的に評価した。分析では、最小二乗法 (OLS) を用いて Intention to Treat (ITT) の効果を推計し、トリートメント群の公共財実験の結果がコントロール群と比べて平均的にどう変化するかを確認した。また、トリートメント群の中で上記活動を実施しなかった学校や、コントロール群の中で活動を実施した学校が存在したため、操作変数法 (2SLS) を用いて Local Average Treatment Effect (LATE) を推計し、トリートメント群への割り当てを通じた COGES の活動実施の平均的効果を計測した。

### ■ 主な結論 (政策的含意を含む)

分析の結果、COGES プロジェクトは公共財の自発的供給として計測された社会関係資本、特に学校・保護者間の連結型社会関係資本 (linking social capital) を有意に高めることが明らかになった。COGES プロジェクトの実施は公共財の自発的供給を平均的に 8-10.2% 高める。特に、校長・教員・保護者から成るグループについては、運営委員選出のための民主的選挙を通じて 12.7-24.1%、プロジェクトの実施を通じて 11-17.2% 公共財供給を高める。これらの結果は、学校運営委員会の設置は公共財供給を高めることでコミュニティによるプロジェクト費用の自己負担を促進し、プロジェクトの財政的持続可能性を高めることを示している。さらに、RCT と人工的フィールド実験を組み合わせたデータの分析結果は当該学校の現実の意思決定データの分析結果とも整合的である。また、本研究の分析結果は行動経済学における社会的選好のモデルを支持するものでもある。